

保育ニュー・スタンダード

# 保育内容「言葉」

—話し, 考え, つながる言葉の力を育てる—

Language : Contents of Early Childhood Care & Education

[編著者]

太田光洋・古相正美・野中千都

[著者]

川俣沙織・渡邊 望・森木朋佳・島田知和・中山智哉・永田麻詠  
大元千種・岡本満江・山本直樹・下川涼子・大谷 朝・高橋さおり



---

【編著者】

**太田光洋** (おおた・みつひろ) / 第1章, 第9章第3節  
長野県立大学教授

**古相正美** (ふるそう・まさみ) / 第11章第1・2節  
中村学園大学教授

**野中千都** (のなか・ちづ) / 第3章第1・2節  
中村学園大学准教授

【著者】

**川俣沙織** (かわまた・さおり) / 第2章  
中村学園大学短期大学部講師

**渡邊 望** (わたなべ・のぞむ) / 第3章第3・4節  
長野県立大学准教授

**森木朋佳** (もりき・ともか) / 第4章  
鹿児島純心女子短期大学准教授

**島田知和** (しまだ・ともかず) / 第5章  
別府大学短期大学部講師

**中山智哉** (なかやま・ともや) / 第6章  
長野県立大学准教授

**永田麻詠** (ながた・まよ) / 第7章  
四天王寺大学准教授

**大元千種** (おおもと・ちくさ) / 第8章第1・2節  
別府大学短期大学部特任教授

**岡本満江** (おかもと・みつえ) / 第8章第3節, 第11章第3節  
社会福祉法人協愛福祉会 ひなたの風保育園副園長

**山本直樹** (やまもと・なおき) / 第9章第1・2節  
長野県立大学准教授

**下川涼子** (しもかわ・りょうこ) / 第9章第4節  
特定非営利活動法人アートインライフ理事

**大谷 朝** (おおたに・あさ) / 第10章  
精華女子短期大学教授

**高橋さおり** (たかはし・さおり) / 第12章  
北翔大学短期大学部准教授

---

## はじめに

2018（平成30）年4月1日より日本の保育ガイドラインである幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に施行されました。この施行は、わが国の教育にとって2つの意味で大きな転換点といえます。

ひとつは、保育施設の種類を問わず、すべての保育施設で共通して質の高い幼児教育を保障しようとするものであることです。そして、もうひとつは幼児期から始まる学校教育を通して育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に再整理し、それらをバランスよく育もうとするものです。そして、「主体的、対話的で、深い学び」への改革が志向されています。

保育や幼児教育についてみると、今回の3つのガイドラインの同時施行はこれまでの改訂（改定）と大きく異なる背景として、社会の急激な変化が要因になっていると思われます。そして、これから先の見えない世界を生きていくために、人間がもともと持っている他者をつながる力が不可欠であるということを再認識することに至ったのではないのでしょうか。言葉はそのために特に重要な役割を果たすものであるといえます。

人は、言葉を通してそれぞれの生きる社会を理解し、言葉を通して考え、想像し、言葉を通して他者をつなぐことができます。それはまた、時間と空間を超えて対話することを可能にし、つながることができる素晴らしいものです。乳幼児期は言葉の力の土台を育てる大切な時期です。

本書では、多くの部分で言葉の発達を人や社会とのかかわりと結びつけて論じられています。両者は不可分だからです。事実、諸外国の幼児教育改革の中でも「人と人とのかかわりを通して学び、より有能な他者の支えを得ながら発達する」という社会的構成主義が大きな影響を与えています。これらの考え方は、子どもを有能な存在と捉え、一人ひとりの子どもの個性や関心を尊重するものであり、人とのかかわりを通して人の成長（言葉や発達）がどのように進むのかを具体的に示してくれるものだからです。

本書を通して、子どもの言葉の発達について学び、それを支える具体的な保育内容や方法を、驚きと楽しみを感じながら学んでほしいと思います。本書が、子どもの豊かな言葉の世界を広げる保育者としての育ちに役に立つことができたら幸いです。

編著者代表 太田光洋

# Contents

---

## 第1章 保育の基本と領域「言葉」 …… 1

### 1 言葉の育ちと領域「言葉」 …… 1

- 1) 領域「言葉」を学ぶ目的 …… 1
- 2) 領域と保育内容 …… 6
- 3) 子どもの育ちと言葉 …… 2
- 4) 言葉と文化 …… 4

### 2 保育の基本と保育内容 …… 4

- 1) 子どもと学びをどう捉えるか …… 4
- 2) 環境による教育 …… 6
- 3) 子どもらしい生活 …… 7
- 4) 遊びを通しての総合的指導 …… 7
- 5) 一人ひとりの発達に応じた指導 …… 8

### 3 言葉の力を育てる保育 …… 8

- 1) 子どもの育ちをめぐる課題と言葉 …… 8
- 2) 言葉の育ちを促す保育 …… 9
- 3) 保育者の役割 …… 9

### 4 「幼児教育」がめざすもの …… 10

- 1) 教育における幼児期の位置づけ—幼児教育において育みたい資質・能力の3つの柱 …… 10
- 2) 保育内容を通して育つカー幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) …… 11

## 第2章 人の育ちと言葉の役割 …… 13

### 1 言葉の持つ意義と機能 …… 13

- 1) 言葉の持つ意義 …… 13
- 2) 言葉の機能 …… 15

### 2 言葉が育つ土台 …… 19

## 第3章 領域「言葉」のねらいと内容 …… 23

### 1 乳児保育におけるねらいと内容 …… 23

- 1) 乳児の発達 …… 25
- 2) 領域「言葉」における乳児保育に関わるねらい及び内容 …… 25

### 2 1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容 …… 30

- 1) 1歳以上3歳未満児の発達 …… 31
- 2) 領域「言葉」における1歳以上3歳未満児に関わるねらい及び内容 …… 31

### 3 3歳以上児におけるねらいと内容 …… 38

- 1) 言葉で表現する楽しさを味わう …… 39
- 2) 伝え合う喜びを味わう …… 41
- 3) 絵本や物語に親しみ、言葉に対する感覚を豊かにする …… 42

### 4 領域「言葉」と10の姿とのつながり …… 45

## 第4章 3歳未満児における言葉の発達とおとなの役割 …… 49

### 1 言葉の発達 …… 49

- 1) 「言葉が成立するまで」の時期の発達 …… 49
- 2) 「言葉の成立以降」の発達 …… 54

### 2 乳児期の子ども言葉の育てるおとなの役割 …… 56

- 1) 人への興味・関心 …… 56
- 2) 愛着の形成と言葉の発達 …… 57
- 3) マザリーズの使用 …… 59
- 4) 乳児の状態を読み取る・付け加える …… 59

### 3 1歳以上3歳未満児の子ども言葉の育てるおとなの役割 …… 60

- 1) 「話したい」気持ちを支える …… 60
- 2) 絵本とのかかわり …… 62

## 第5章 3歳以上児(幼児教育)における言葉の発達とおとなの役割 …… 65

### 1 言葉の発達 …… 65

- 1) 豊かな経験と言葉の発達 …… 66
- 2) 3歳児の言葉の発達 …… 69

- 3) 4歳児の言葉の発達 …… 70  
 4) 5歳児の発達の特徴 …… 71  
 5) 文字との出会い …… 73
- 2 子どもの言葉を育てるおとなの役割** …… 75
- 1) 経験から生まれる言葉 …… 75  
 2) 子どもの思いを受け止めて言葉を引き出す …… 76  
 3) 心の拠り所となる保育者 …… 78

## 第6章 言葉のかかわりに配慮を要する乳幼児と保育 …… 81

- 1 言葉のかかわりに配慮が必要な子ども** …… 81
- 1) 言葉の発達と遅れ …… 81  
 2) 言葉の遅れの背景にある要因 …… 83
- 2 言葉のかかわりに配慮が必要な子どもの支援** …… 86
- 1) 保育の場における言葉の支援 …… 86  
 2) 保護者支援 …… 90  
 3) 専門機関との連携 …… 92
- 3 外国にルーツをもつ子どもの言葉の支援** …… 93
- 1) 外国にルーツをもつ子どもの支援 …… 93  
 2) 保育における言葉の支援 …… 94

## 第7章 小学校との接続（言葉の育ちを中心に話し言葉から書き言葉へ） …… 97

- 1 保育所での育ちが小学校へつながる事例** …… 97
- 2 子どもの育ちを見通すことの必要性** …… 98
- 1) 保育から教育へと接続される3つの柱 …… 98  
 2) 就学後の育ちを見通した保育者のかかわり …… 100  
 3) 「言葉による伝え合い」への影響 …… 101
- 3 小学校や地域社会との連携** …… 102
- 1) 子どもの「これから」と「横のつながり」を見通す …… 102  
 2) 就学後の子どもに求められる言葉の支援 …… 104
- 4 アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム** …… 105
- 1) 幼少接続期カリキュラムの重要性 …… 105  
 2) 「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への展開 …… 106  
 3) 保育内容「言葉」を足場に小学校との接続を探る …… 109

## 第8章 領域「言葉」における教材研究と指導法 1 言葉を楽しむ …… 111

- 1 言葉のリズムややり取りを楽しむ** …… 111
- 1) わらべうた …… 111  
 2) ふれあいあそび …… 119  
 3) 手遊び …… 121
- 2 言葉の感覚を楽しむ** …… 123
- 1) なぞなぞ …… 123  
 2) 一音一字の気づきからの遊び …… 124  
 3) しりとり …… 125  
 4) さかさ言葉（回文） …… 125  
 5) その他の言葉遊び …… 126
- 3 指導計画の立案（例）と模擬保育** …… 129
- 1) わらべうた …… 130  
 2) ふれあい遊び …… 132  
 3) 言葉遊び …… 134

## 第9章 領域「言葉」における教材研究と指導法 2 創造や表現を楽しむ …… 137

- 1 見たりつくったりを楽しむ 人形劇、シアターなど** …… 137
- 1) 子どもが演劇や人形劇を鑑賞する体験 …… 137  
 2) 子どもが演劇や人形劇を創作し発表する体験 …… 139
- 2 ごっこや演じることを楽しむ 劇遊び** …… 143
- 1) 子どもがごっこを楽しむ体験 …… 144  
 2) 子どもが劇遊びを楽しむ体験 …… 146

<b>3 園や地域の文化的活動を楽しむ</b> …… 152	
1) 園や地域の特性を生かした保育 …… 152	2) 特色ある取り組みを保育の中に位置づける …… 153
3) 神楽への取り組みと言葉の育ち …… 154	
<b>4 指導計画の立案(例)と模擬保育</b> …… 160	
1) 『おおきなかぶ』を活用した劇遊び 指導計画と概要 …… 160	
2) 『おおきなかぶ』を活用した劇遊び 【導入】【展開】【まとめ】 …… 163	
3) 劇遊びのポイントと評価について …… 166	
<b>第10章 領域「言葉」における教材研究と指導法3 イメージや想像を楽しむ</b> …… 169	
<b>1 聞いてイメージして楽しむ 児童文学,幼年童話,ストーリーテリング</b> …… 169	
1) 子どもの言葉の体験における文学 …… 169	2) 子どもが楽しむ児童文学の特質 …… 170
3) 幼年童話 …… 171	4) 昔話 …… 172
5) 詩 …… 173	6) 子どもが物語を楽しむ方法 …… 174
7) 子どもがストーリーテリング(お話)を聞く際に体験していること …… 175	
<b>2 見てイメージして楽しむ 絵本</b> …… 176	
1) 絵本とは …… 176	2) 絵本の絵の意味 …… 177
3) 絵本の種類 …… 179	4) 子どもの絵本体験 …… 181
5) 絵本の読み聞かせを通した子どもの体験の意義 …… 184	6) 絵本の選択 …… 184
<b>3 保育計画について(指導法についての演習)</b> …… 188	
1) 文学に出会う体験 …… 188	2) 絵本の読み聞かせ …… 189
3) ストーリーテリング(お話) …… 192	4) 絵本や本のある環境 …… 195
<b>第11章 領域「言葉」における教材研究と指導法4 生活に使って楽しむ</b> …… 197	
<b>1 生活で使う 話し言葉で伝え合う 小学校の「話し合い活動」につなぐ</b> …… 197	
1) 生活で使う言葉 …… 197	2) 話し言葉で伝え合う …… 200
3) 小学校における話し合い活動 …… 204	
<b>2 文字で伝える 文字・手紙・かるた</b> …… 205	
1) 文字の獲得過程 …… 205	
2) 保育所保育指針・幼稚園教育要領における文字教育 …… 206	
3) 小学校学習指導要領における文字教育 …… 207	4) 文字への興味・手紙 …… 209
5) 文字への前段階 …… 210	6) 文字への導入・かるた …… 211
<b>3 指導計画の立案(例)と模擬保育</b> …… 213	
1) 自ら使うことで文字への理解を深める …… 213	2) お手紙ごっこ, かるたづくり …… 214
3) 絵本づくり …… 220	
<b>第12章 子どもの言葉の育ちにかかわる今後の課題</b> …… 221	
<b>1 コミュニケーション(伝えあう, 話し合うこと)</b> …… 222	
1) 分かり合うための言語コミュニケーションの要素 …… 222	2) 集団の中で培われるコミュニケーションの力 …… 223
<b>2 ICTの活用</b> …… 225	
1) Society5.0に向けた学習環境の整備 …… 225	2) GIGAスクール構想と保育所における対応 …… 226
<b>3 多文化共生</b> …… 227	
1) 日本語指導が必要な外国籍等の子どもの増加 …… 227	2) 外国籍の幼児と保護者に対する適切な配慮 …… 228
さくいん …… 231	

# 第1章 保育の基本と 領域「言葉」

## 学びのポイント

- 領域「言葉」を学ぶ目的を知り、子どもの言葉をどう考え、かかわるべきかを考察する。
- 保育のあり方や質を考える上で重要な理論である子ども観、学習観を理解する。
- 環境による保育、遊びを通した総合的指導など、保育の基礎知識を学ぶ。
- 言葉の育ちを促す保育と保育者の役割について、1年間で学ぶ内容を概観する。

## 1 言葉の育ちと領域「言葉」

### 1) 領域「言葉」を学ぶ目的

領域「言葉」は保育内容指導法の科目のひとつである。この科目について学ぶ目的は、保育者自身の言葉の能力を育てることではない。子どもたちの言葉にかかわる力を育てるために、保育者として知っておきたいことや必要な技能について学ぶことが目的である。

したがって、言葉やその機能をどのように捉え、言葉の育ちがどのようなことを基盤に、どう育っていくのかを理解する必要がある。こうした理解をもとに、保育のあり方、すなわち、どのような環境や教材、かかわりや援助のあり方が求められるのかについて学び、実践者として必要な知識や技能を身につけることが求められる。知識だけでは、子どもの力を育てる具体的実践はできないし、技能だけでは「ただ、その時だけ楽しい経験」を提供できるに過ぎない。知識と技能、理論と実践を結びつけて学ぶことが求められることをまず意識しておきたい。

### 2) 領域と保育内容

「領域」は、子どもの発達を捉える窓口であると捉えておくと良い。また、保育内容は、5つの領域に分けられているが、これらはそれぞれの子どもの発達を捉える観点から、幼児期に育てたい資質や能力をふまえ、幼児教育<sup>\*1</sup>において子どもが経験する事項を特質に応じて分類したものである。

ここで注意しておきたいことがいくつかある。ここでは2点について述べてお

\*1 ここでは、広義の保育のうち、満3歳から就学前までのすべての子どもに保障された幼児教育を指す。

きたい。ひとつは、「領域」は、小学校以降の学校教育における「教科」とは異なるものだということだ。「領域」は、子どもの発達側面から整理されているのに対して、「教科」は各教科の知識体系をもとに整理されているものである。また、こうした両者の違いは、教育（保育）方法の違いとも密接にかかわっている。幼児教育においては領域の枠にかかわらず、総合的な指導が基本であるのに対して、教科では、一部合科的に取り扱われることはあるが、それぞれの教科は基本的に独立している。

幼児期から学童期への接続が強く意識され、**接続カリキュラム**<sup>\*1</sup>も検討されるようになってきているが、保育と小学校教育のそれぞれの教育内容と方法の違いについて理解が十分でないと、領域を短絡的に教科に結びつけてしまい、小学校への準備教育のような誤りを繰り返すことになりかねないので気をつけたい。

もうひとつは、「領域」が子どもの発達を捉える窓口であるという点である。したがって、5つの観点から子どもを捉えることができるが、それぞれの子どもによってその発達にはばらつきや偏りがある（図1-1）。このことは、一人ひとりの子どもの特性に配慮し、尊重することにつながる。誰ひとりとして同じように育つ子どもはおらず、育つ道筋が異なることを特に留意しておきたい。一人ひとりの子どもの興味関心や良さを尊重し、その育ちを支え、伸張する保育が強く求められるようになってきている<sup>\*2</sup>。

**\*1 接続カリキュラム**：幼児期の学びの特徴をふまえ、学童期の学びへと無理なく接続するためのカリキュラム。幼児期の終わりから小学校入学までの「アプローチカリキュラム」、小学校入学後の「スタートカリキュラム」がある（第7章p.105参照）。

**\*2** このことは、「保育の質」の議論とも深くかかわっている。保育が量的な充実期を経て、質的転換期に入った大きなメルクマールともいえる。すべての子どもに同じような保育を提供するといういわば大量生産型の保育から、個に応じた多様で「いい保育」への転換といつて良いだろう。

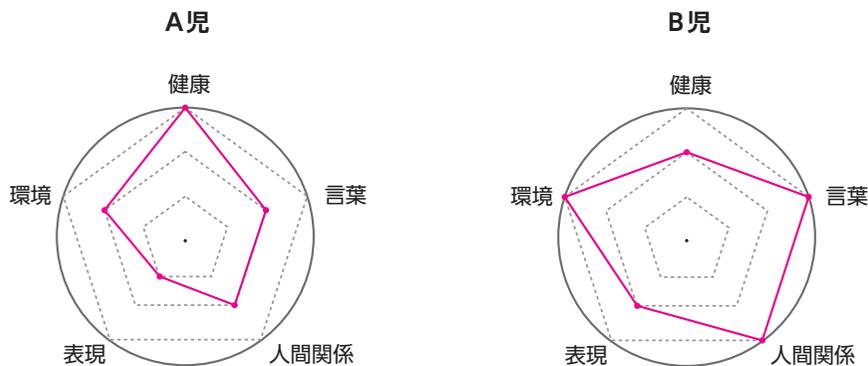


図1-1 それぞれの子どもの発達の偏り

### 3) 子どもの育ちと言葉

本書は領域「言葉」について学ぶことを目的としているが、前述したとおり、領域は発達側面を示すものであり、保育は総合的に展開するものである。このような観点から言葉について考えると、言葉は子どもの発達や生活のあらゆる面

とかかわっている。言葉の機能については、次章で詳しく説明されているので、ここでは子どもと生活をともにする保育の中で子どもの言葉をどのように考え、かかわっていくかについて押さえておきたい。

ヴィゴツキー<sup>\*1</sup>によれば、言語は「最初是人々の間でのコミュニケーションの手段として、次に自己とのコミュニケーションの主要な手段として<sup>\*2</sup>」精神的な機能をかたちづくる。また、こうした機能によって子どもの「認知が社会的に共有され位置づけられる」という。このように子どもの学びを社会的（他者とのかわり）な営みとして捉える立場は「**社会的構成主義**<sup>\*3</sup>」と呼ばれる。つまり子どもの言葉は、最初はおとなや周囲の人との具体的なやりとり（コミュニケーション）として機能するが、それが子どもの内部に取り込まれて自己内対話（思考や行動の自己調整）として機能するようになる。ヴィゴツキーは、この外に発せられる言葉を「**外言**」、自分に向けられる言葉を「**内言**」と呼び、言葉の発達を「**精神間機能**」から「**精神内機能**」へと進むものと捉えている（図1-2）。そして、こうした社会的なやりとり（他者とのコミュニケーション）が内化されることによって、子どもが生活する社会における認知（物事の捉え方、価値、考え方や感じ方など）を他者と共有しながら育つという<sup>\*4</sup>。

これらのことは、保育に大きな手がかりを与えてくれる。つまり、保育の中で展開する保育者の言葉、子どもとの言葉のやりとりが、子どもの認知——「心」といっても良い——をつくり、価値観の共有を促すということである（図1-3）。

保育者から発せられる言葉が子どもの心をつくっていくことをふまえて、保育者自身の言葉に対してセンシティブになってほしい。

\*1 第2章p.17参照。

\*2 バーク,L.E.,ウィンスラー,A,田島信元・田島啓子・玉置哲淳訳『ヴィゴツキーの新・幼児教育法』北大路書房,2001,p.21

\*3 **社会的構成主義**：「世の中の事物が社会的に構成されている」と考える哲学的な考え方のこと。

\*4 個々の子どもの内言の発達は、その後の他者とのコミュニケーション（外言）に生かされ、さらに豊かな内言の育ちへとつながっていく、というように往還していく。

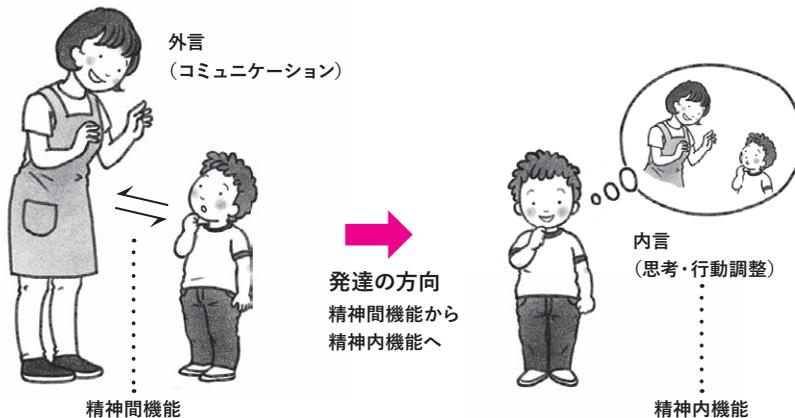


図1-2 保育者などからかけられた言葉がその社会の価値観を伝え、子どもの心をつくっていく

すなわち就学前から高等学校までの発達や学びを見通して、一貫した資質・能力の育成がねらいとされ、就学前では3本の柱として「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」とされた(図7-1)。さらに上記「第2章に示すねらい及び内容」＝「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として具体化されている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳心・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の10項目が示されている(図7-2)。

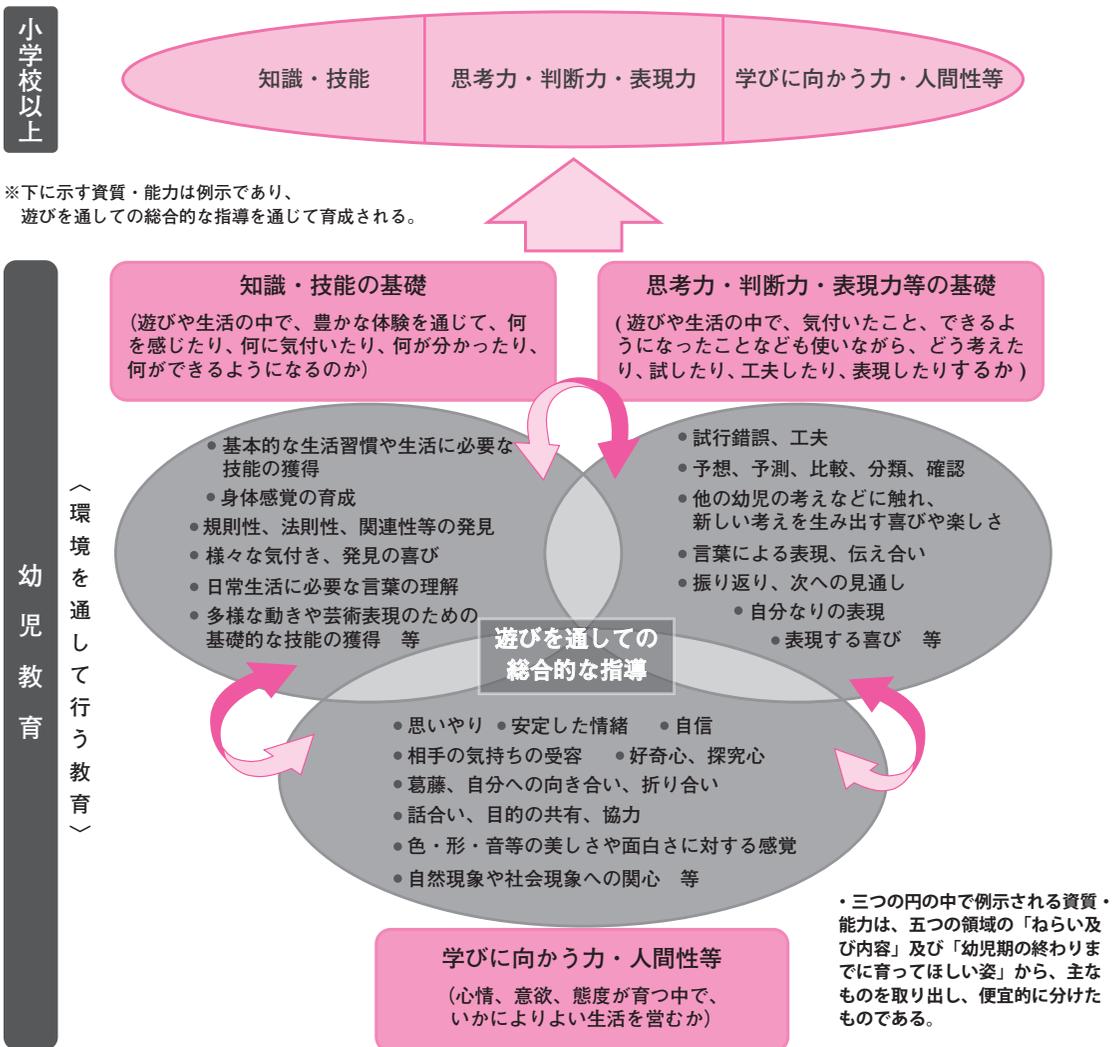


図7-1 幼児教育において育みたい資質・能力

資料) 文部科学省教育課程部会幼児教育部会「幼児教育部会における審議の取りまとめ」(2016)より抜粋

0歳のころよく遊ばれる「にんどころ」の“にんどころ”とは、似ているところという意味だが、家族のみんなに似ている、みんなに愛されているという気持ちがこめられた遊びである。さわられるのが嫌な子どもには、人形やぬいぐるみにして見せることで徐々に楽しむことができるようになる。わざとふれる順番を変えて「次は？」と期待をもたせるのもおもしろい。<sup>\*1</sup>

\*1 NPO法人東京都公立保育園研究会『子どもに人気のふれあいあそび』ひとなる書房、2005、p.14-15ほか

## にんどころ

わらべうた

こ こ は とう ちゃん にん どころ      こ こ は かあ ちゃん にん どころ

こ こ は じい ちゃん にん どころ      こ こ は ばあ ちゃん にん どころ

こ こ は ねえ ちゃん にん どころ      だ い どー      だ い どー  
こ ち ょ      こ ち ょ      こ ち ょ



①ここは とうちゃん にんどころ  
右のほほを人差し指で4回さわる



②ここは かあちゃん にんどころ  
左のほほを人差し指で4回さわる

③ここは じいちゃん にんどころ  
おでこを4回さわる



⑥だいどー だいどー  
顔全体を2回なでる



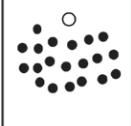
⑦こちよこちよこちよ  
くすぐる

④ここは ばあちゃん にんどころ  
あごを4回さわる

⑤ここは ねえちゃん にんどころ  
鼻の頭を4回さわる

## 2) ふれあい遊び

### 指導計画の例〈4歳児 ふれあい遊び〉

○月 ○日( )		4歳児 計20名		
実習生氏名	○○ ○○○	指導担当者名	○○ ○○○	
主な活動	●手遊び「パン屋さんにおかいもの」をする。			
子どもの姿	●友だちと一緒に遊ぶ中で自分の気持ちを話したり、相手の気持ちを少しづつ聞こうとする姿が見られるようになってきている。			
ねらい	●皆と一緒に歌ったり、触れ合ったりして気持ちを共有することを体験する。 ●身近な生活の中で使用する言葉を知り、表現することを楽しむ。			
内容	●「パン屋さんにお買い物」に合わせて他児とふれあい遊びとして楽しむ。 ●友だちとコミュニケーションを取りながら、一緒に手遊びを楽しむ。			
準備物	●ペープサート(導入として使用する所以他の手段で行う際は準備しなくてもよい)			
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者としての援助と留意点	
10:00	 ○…実習生 ×…子ども  ●ペープサート  ●ふれあい遊び 「パン屋さんにおかいもの」   2人組になるようにする	●排泄から戻り、身支度の整った子どもから実習生の周りに集まってくる。 ●すぐに身支度を済ませ集まってくる子どももいれば、準備に時間のかかる子どももいる。 ●「○○～」「△△～」と言いついクイズに参加する。	●全員が揃うまで、他の手遊びやじゃんけんをするなど子どもの興味ひきだせるように誘う。  ●徐々に集まってくる子どもと触れ合いながら、準備に時間のかかっている子どもにも焦らなくてもよいことを伝え、配慮する。 ●「今からクイズをするね」と言いつて、パンのペープサートを見せクイズを行う。 ●「今日は皆とパン屋さんの手遊びをしたいな。パン屋さんにはどんなパンが売ってるかな」と問いかけ、今から始まる活動に期待がもてるようにする。 ●子どもの状況に合わせて速さを調整しながら手遊びを行う。 ●無理強いはせず、温かく見守る。	身支度に時間がかかってしまう子どもがいる際は、他の手遊びやジャンケンなど先に集まった子どもが飽きないように配慮する。同時に時間がかかっている子どもにも楽しいことが始まることを伝え意識できるようにする。
10:05		●実習生に合わせて手遊びをする。 ●手遊びをしない子どももいる。  ●実習生の話を聞き、友だちを探し2人組になって向き合う。 ●友だちと笑顔で一緒にふれあい遊びを楽しむ。	●「次は2人組でしてみよう」と1人から2人で向き合っていることを伝える。 ●子どもたちの中の1人と実習生とで2人組になり、見本を見せる。 ●クラス全員が2人組になっていることを確認してから手遊びを始める。	手遊びをしていないから楽しんでいないわけではない。リズムを体で感じている子どももいるので、見極めが必要。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歌に合わせて他児と向き合って行う子どももいれば、“お互いに向き合う”ことへの意味が分からず戸惑う子どももいる。</li> <li>• 実習生の声かけで他の友だちを探す。</li> <li>• すぐに他の友だちと2人組になり嬉しそうにしている子どももいれば、特定の友だちと2人組になりたい子どももいる。</li> <li>• 友だちと楽しんで活動に参加する。</li> <li>• 実習生の周りに集まり話を聞く。</li> <li>• 自分の楽しかったことを伝え、友だちの話も聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもだちに分かりやすいように最初はゆっくり行う。サンドイッチ、メロンパン、ねじりドーナツなどの歌詞に合わせて相手の目や鼻や耳に触れ、1番と2番で役割を交替する。その際、子どもの様子を見ながら遊びを進めていく。</li> <li>• 「次は他の友だちと2人組になりましょう」と子どもだちに伝える。</li> <li>• 特定の友だちの2人組を好む子どもは、一緒にしたかったことに共感しながらも他にも友だちがいることを伝えていく。</li> <li>• 慣れてきたら少し速くしたり、お互いに同時に動作しあうなど変化をつけて楽しめるようにする。</li> <li>• 子どもの反応や状況を見ながら、満足感が得られるようにする。自分たちで考えたパンを使って遊んでみるのもよい。</li> <li>• 子ども同士がふれあって楽しんでいた姿を話し、改めて皆と一緒に遊ぶことの楽しさを分かち合う。</li> <li>• 子どもの声に耳を傾け共感し、「次にやってみようね」など次回へ期待感をもって活動に参加できるようにして終了する。</li> </ul>	<p>ゆっくりと大きな身振りでするようにしていくことで戸惑いがなくなるように配慮する。</p> <p>気の合う友だちとずっと活動を一緒にしたい気持ちに共感しながらも、ねらいとは異なるので、2人組作りに時間を取られないようにしていく。</p> <p>自分の思いをスラスラと言葉にして伝えることが難しい子どもも「友だちと一緒に色々なパンを作って楽しかったね」など実習生が代弁してあげることによって楽しかったことを確認できる。日頃から自分の思いを伝える機会を設けることが大切。</p>
--	--	---	---

<パンやさんにおかいもの>



①パンパンパンやさんにおかいもの  
2人組で向き合い、リズムよく互いの手を合わせる



②サンドイッチに  
一方が相手の両頬を両手ではさむ



③メロンパン  
相手の両目を「あかんぺー」する



④ねじりドーナツ  
相手の鼻の頭をつまんでねじる



⑤パンのみみ  
相手の両耳をひっぱる



⑥チョコパンふたつ くださいな  
手を叩いた後、両手を相手にさし出す

### 3) 言葉遊び

日頃からすぐに取り組める言葉遊びの一例を紹介する。これらの活動は、好きな遊びをしているときや、通園バスの中、午睡の前後など、ちょっとした時間を使って楽しむと、子どもたちだけでもできるようになる。

#### 言葉遊び〈しりとり〉

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>しりとりをする。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの言葉に触れ、興味関心を持ち、頭文字や末尾の音節に気づく。</li> <li>何度も繰り返しながら、ルールを理解し言葉遊びを楽しむ。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>順番にしりとりをし、語彙や言葉の感覚を豊かにする。</li> </ul>
環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>しりとりに関する絵本を読み、ルールを理解する。</li> <li>日頃から頭文字集め(「あ」から始まる言葉を見つける)を保育の中に取り入れておく。</li> </ul>
遊び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の人と言った単語の最後の文字から始まる単語を順番に言い合う。</li> <li>最初は保育者と子どもたちが交互に言い合い、しりとりのルールを体感する。</li> <li>人数は多くても少なくともよいが、輪になり行くと子どもたちにも順番が分かりやすい。</li> </ul>
援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>しりとりに関してはさまざまなルールがあるが、「ん」で終わらないようにすること以外はよしとすれば年少児からでも始めやすい。(その後1度言った単語は言わないようにするなど、子どもたちとルールを作っていくとよい)</li> <li>順番が回ってきても頭に浮かばない子どももいる。「しりとり」に参加したいという子どもの気持ちを尊重し、保育者がなぞなぞ形式のように遊び始めると楽しく参加することができる。</li> <li>通園バスの中やバスを待っている時、遠足に行く道中など場所も選ばずにどこでも始められる。</li> </ul>

※第9章2節〈保育者のかかわり〉の中でも述べたように、おばあさんやかぶのように、物語の中にある役としておとなが登場することは、劇遊びをより発展的に展開させ、子ども達を物語の世界へ引き込む有効な手だてである。また見えないかぶの葉としたことについて、岡田陽は劇遊びとは想像の遊びであると述べる。「子どもは身体動作を使って、ごく自然にイメージの外化を行うものである。(中略) 想像力を触発するために、ちょっとした布切れ一枚をまったりすることはあるが、劇遊びには見せるための説明の補助手段は無用である。基本的に劇遊びは見せるためにやるのではなく、やって楽しむためのものだからである。」\*1

\*1 岡田陽『子どもの表現活動』玉川大学出版部、1994、p.113-116



おばあさん「抜けないね！おっと、かぶが何か言ってるよ。(おばあさんだけかぶに近づき、話を聞くそぶり)痛い！って。あまり痛いことしたら甘くなくなるよって！それは困るね、どうしよう。」

(子どものアイデアを聞く。「周りを掘る」「優しくする」などの口々に意見が出てくる。)

子ども「水をあげる！」

おばあさん「かぶに聞いてみよう。ちょうどお腹がすいたって言ってるから、さっき遊んだ川で水を汲んできてくれる？」

(子どもたち、何度も水を汲みかぶに与える動きをする。子どもの中から「美味しい土をあげたら」という意見が出たので、今度はやわらかくて美味しい土を探してくるように伝える。)

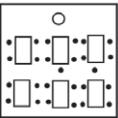
おばあさん「おお、かぶが喜んどる！と思ったら、今度は悲しくなるとる。(話を聞くそぶり)こんなに立派に育ったのに名前がなくて悲しい。みんなにつけてほしい。いい名前だともっと甘くなりますって。」

(口々に名前前のアイデアを言う子もいれば、考えている子もいる。保育者を囲むように座らせて、話を聞く。近くの友だちと話し合うよう声かけも行う。)

考えた名前を1人ずつかぶに伝えにいく。かぶ役の補助保育者は表情やうなづきなどで反応する。全員伝え終え、おばあさんがかぶに話を聞きに行く。)



指導計画の例（かるたづくり）

○月 ○日（ ）		5歳児 ○○組 26名	
実習生氏名	○○ ○○○	指導担当者名	○○ ○○○
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで考え、かるたを作成して伝承遊びに親しむ。</li> </ul>		
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>お正月プレゼントで園からもらったかるたを家庭や園で行い、かるた遊びの楽しさを味わっている。読み手をおとながするのではなく、自分たちで読みあう姿も見られる。</li> </ul>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>かるたづくりを通して文字への興味・関心を持つ。</li> <li>感じたことや考えたことを自分なりに表現する。</li> </ul>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>かるたづくりの中で知らない文字を知ろうとしたり書いたりする。</li> <li>読み札と絵札を自分で考え、イメージを表現する楽しさを味わう。</li> </ul>		
準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>画用紙（読み札用と絵札用）※読み札は薄目の色画用紙にするなど、子どもがわかりやすいようにする。マーカー、クレパス、あいうえお表、かるた（数種類）お正月遊び（羽子板、福笑いなど）</li> </ul>		
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者としての援助と留意点
10：00	 <p>○…実習生 ×…子ども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習生の話を聞く。</li> <li>実習生からの問いかけに対して、自分の知っているものや、体験したことがあるものを話す。</li> <li>活動に対して興味を示す子どももいれば、そうでない子どももいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福笑いや羽子板、かるたなどの正月遊びを見せ、子どもの興味・関心が持てるようにする。</li> <li>子どもの発言に耳を傾け、共感する。また、その中でもかるたに注目がいくように話をする。</li> </ul>
10：05		<ul style="list-style-type: none"> <li>準備物を用意する。</li> <li>何の文字にしようか友だちと話している。</li> <li>かるたづくりをする。</li> <li>すぐに書き始める子どももいれば、何を書いてよいのかイメージできない子どももいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は自分たちでかるたを作り、皆で遊ぶことを提案し期待が持てるようにする。</li> <li>さまざまな種類のかるたを用意し、子どもたちのイメージが広がるようにする。</li> <li>絵札と読み札を子どもたちと確認し混乱しないようにする。また、文字は自分の作りたい文字でよいことや注意点を伝える。</li> <li>文字がわからない子どもに対して不安を感じないように、あいうえお表を用意し配慮する。</li> <li>子どものユーモアある考えを拾っていけるように、見守る。</li> <li>何を書いたらよいか戸惑っている子どもには、「何が好き？」「何の文字書きたい？」など答えやすい質問をしたり、会話をしたりしながらイメージが広がり書けるようにする。</li> </ul>

日頃からかるた遊びをしていると子どもたちもかるたを作るには読み札と絵札が必要であることをイメージしやすい。

50音全て揃わないといけないのではなく、自分の好きな文字のかるたを作ることが大切。また要点を伝えるときはわかりやすいようにすること。子どもが考える手がかりとして、自分の名前から一文字でもよい。

質問をする時は、質問せめにならないようにし、子どもが答えやすい雰囲気を作ることが大事。また、悩んでいる子どもにはアイデアを出してあげるなど援助も必要。

<p>10:40</p>	<p>〈かるた〉 絵札</p>  <p>読み札</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成した子どももいる。</li> <li>出来上がったかるたを友だちと見せあっている。</li> <li>出来上がっていない子は不安そうにしている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>出来上がったかるたを一人ひとり紹介する。</li> <li>自分で作ったかるたを嬉しそうに紹介したり、友だちの作ったかるたの紹介を聞く。</li> <li>明日のかるた大会を楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く完成した子どもには、もう1枚書いてもよいことを伝える。</li> <li>まだ出来上がっていない子どもには個々に声をかけ、好きな時間に続きをしてよいことを知らせる。</li> <li>一人ひとりの思いを大切に、自由な発想や表現に共感する。</li> <li>皆の前で自分の考えや作品を言葉にして発表する機会を設けるようにする。</li> <li>友だちのかるたを聞き、友だちのよさにも気づいていけるようにする。</li> <li>明日皆が作ったかるたでかるた大会をすることを伝え、期待が持てるようにする。</li> </ul>	<p>制作は個々の時間差が大きいことから、早く完成した子どもには手持ち無沙汰にならないよう、あらかじめ決める活動を決めておくもよい。</p> <p>朝のサークルタイムや帰りの会などで自分の思いや意見を伝え合ったり、他者の話も聞くことで、互いの思いを伝え合い、受け止められるようになっていく。</p>
--------------	--	---	--	---



絵合わせカードやかるたあそびを楽しむ子どもたち



言葉のリズムが楽しいかるた



保育者が手作りした  
絵合わせカード